

新年のご挨拶

院長 和田 康雄

明けましておめでとうございます。

皆様方には、日頃当センターの医療活動に対して多くの御支援をいただき、ありがとうございます。この場を借りて感謝申し上げます。

去年は思いもよらない新型コロナウイルス感染症に明け暮れた1年でしたが、近隣の医療・介護関係者の方々は大変な年であったことと思います。当センターも発熱外来、入院病床の確保、他病院の支援等を行ってきました。現場で実際に携わる職員はもちろんですが、それ以外にも病院全体としての各部門の協力体制が必要とされました。一方で、これまで行ってきた通常の急性期医療を、変わらない人員体制の中で、如何に維持していけるかが大きな課題となっています。

当センターはこれまで、診断から始まり、低侵襲な治療、そして緩和ケアまでを一貫して提供できるがん診療体制の充実に努めてきました。2019年より稼働している緩和ケア病棟も地域での認知度が上がり、利用率の増加につながっています。また、手術支援ロボット（ダヴィンチ Xi）による手術件数も着実に増加している状況です。そして、救急医療については昨年2000件以上の救急車受け入れを行ないました。

海外ではワクチン接種も開始されたようですが、急速な収束は未だ見込めない現状であり、当面はこの新型コロナウイルス感染症と共存した医療提供体制の維持が必要と思われます。そのために、近隣の各医療・看護・介護従事者の方々と切れ目のない連携を保ちつつ、地域で求められている高度の医療の提供を引き続き行っていきたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。



安心で安全な 医療の提供を目指して

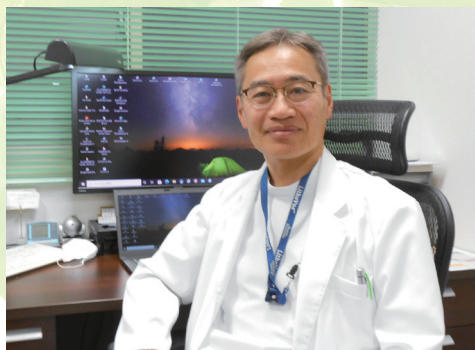
理念

思いやりのある最善の医療を提供し、患者さんと地域、社会に貢献します。

基本方針

1. 地域の中核病院として、高度の医療を提供するとともに他の医療機関との連携を推進します。
2. 救急医療に積極的に取り組みます。
3. 良質な医療を提供するため、健全な経営に努めます。
4. 医師、看護師をはじめ医療従事者の教育研修に努めます。
5. 医学、医療の進歩に貢献すべく臨床研究を進め、正しい医療知識の地域への発信を目指します。

診療科紹介 泌尿器科



岩村外科系診療部長・泌尿器科医長

2019年8月にかねてから導入を要望して参りました最新型手術支援ロボット（通称ダ・ヴィンチ Xi）が姫路医療センターにも導入され、幾多のトレーニング終了後泌尿器科においては10月18日に前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘出術（以下 RARP と略す）を開始致しました。以来2020年末までの14ヶ月の間に予想より早く50例を越える RARP を行うことが出来ました。まず

は導入にご尽力いただいた和田院長先生はじめ事務方の皆様、そして共に準備を重ねていただいた手術室スタッフ、MEの皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、ダ・ヴィンチはアメリカで開発された手術支援ロボットで、わが国では2012年4月に前立腺癌に対する RARP が初めて保険適応となり、それ以後急速に普及してきています。2016年4月には腎癌に対する腎部分切除術が、さらに2018年4月には浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘出術に合わせて、外科領域、呼吸器外科領域や婦人科領域など12の術式にも大幅に保険適応が広がり、当院消化器外科及び呼吸器外科においても胃癌や肺癌などにも導入されています。ダ・ヴィンチの特徴としましては体内を鮮明な3D拡大視野（10-40倍）で観察可能で、手術操作に必要な鉗子は従来の鉗子と異なり多関節を有することにより、術者はあたかも体の中に目と手を入れているような感覚で手術操作が可能になっています。さらには手先の手ぶれ補正機能により、従来の開腹手術や腹腔鏡手術に比べ正確、かつ繊細な操作が可能で、その結果より安全かつ確実な手術を提供することができます。一方、欠点としては従来の手や鉗子から伝わる感覚が一切なく、臓器の固さや縫合の際の糸の張り具合など、視覚のみで判断せねばならず、また術者は左右の鉗子以外に従来助手が役割を担っていた内視鏡操作および3rd アームと呼ばれるけん引鉗子の4つのアームの操作を、両手両足を使って制御せねばならず、それなりのトレーニングと慣れを要します。

昨今急速に増加している前立腺癌の根治手術は、前立腺自体が骨盤底の奥深く、さらには恥骨の裏という非常に狭く視界の悪い位置に存在し、しかもその前面にはサントリー二静脈叢とよばれる網目状の太い血管により覆われていることから、大量出血を来しやすく、癌を確実に切除し（根治性）、かつ前立腺尖部に存在する尿道括約筋のダメージを減らし、術後の尿失禁を最小限にする（機能温存）両



ペイシャントカート風景

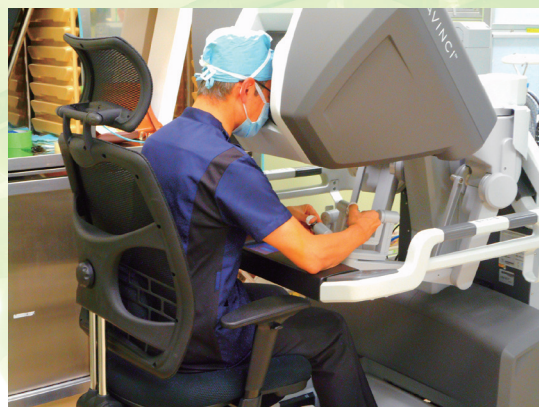
面で満足いく結果を出すには非常に難易度の高い手術とされていました。その解剖学的構造ゆえに、ロボット支援手術のメリットが最大限に生かされ、検証の結果従来の手術に比べて優越性が示され、その結果保険上も他のロボット支援手術術式にない高額なロボット加算が付加されています。

実際 RARP を経験して、従来恥骨裏の観察困難であった前立腺尖部が鮮明かつ視野直下に観察されることにより、前立腺に切り込むことなく安心して前立腺と尿道の切断が可能で、前立腺切除後の膀胱尿道吻合も細かく確実行うことができると実感できています。また繊細な操作が可能な上、腹腔鏡ならではの気腹圧の影響も加わり、出血が大幅に抑えられ、従来の 1000ml 以上の出血から 100ml-200ml 程度の出血と大幅に軽減され、開始以来輸血症例は 1 例も認めていません。

そして何より患者さんにとっては手術創が小さく、その結果痛みが軽減され、翌朝から離床および食事摂取可能で、また確実な膀胱尿道吻合の結果、従来に比べ 1 週間ほど早い術後 5 日目に尿道留置カテーテル抜去でき、患者さんはカテーテルの不快感から早期に離脱でき、術後 1 週間程度で退院可能になっています。

当院はすでに限局性前立腺癌に対する放射線治療では、強度変調放射線治療（IMRT）において実績を上げていますが、さらに RARP の開始により、体に優しい前立腺癌の根治治療の選択肢が加わり、また一方進行癌に対しては従来のホルモン療法に加えて、去勢抵抗性前立腺癌に対する新規ホルモン剤使用や外来での抗癌剤治療、さらには骨転移に対するストロンチウムによる内照射療法など積極的に施行しており、適応の極限られた小線源治療を除き、限局性前立腺癌から進行性前立腺癌までを対象にほぼすべて治療が当院で完結可能となっています。

さらにまだ施設基準を満たしていませんが、先日より浸潤性膀胱癌に対してロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘出術も開始し、さらには体腔内回腸導管造設術も経験しました。幸い術後の経過順調で、従来の手術より侵襲も少なく早期に退院されていきました。まだ体腔内回腸導管造設術に関しては慣れない部分もあり少々時間を要していますが、これからもより良い医療を提供できるよう努力していく所存ですので、地域医療の先生方にはより一層のご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



術者コンソール操作風景



術後7日目創部

新型コロナウイルス感染症への対策をふまえた各診療科の体制

■ 呼吸器内科

ご承知の通り、新型コロナ感染症は重症肺炎をきたすことが多く、当院では呼吸器内科がフロントラインとなって対応しています。

発熱外来については他科と共同して担当するとともに、入院が必要な陽性症例については、姫路市保健所などと緊密な連携をとり、コロナ専用病床に改築変更した病棟（10床）で治療にあたっています。

人工呼吸管理を要する重症者については、他病院（県立加古川・県立尼崎など）に転院搬送する取り決めとなっていますが、重症者の増加とともに転院先がすぐに決まらず、当院でしばらく人工呼吸管理を行わざるを得ない症例も増えてきており、その対応に苦慮しています。早くコロナ禍が収束を迎えることを、祈るばかりです。

■ 呼吸器外科

当呼吸器外科は、今年で開設35周年を迎えます。COVID-19の嵐が吹き荒れるなか、去年は大幅に手術数が減少しましたが、呼吸器センター部長以下常勤4名、専攻医1名、非常勤1名の少数精鋭で、めまぐるしく診療を続けております。従来からの胸腔鏡手術に加え、昨年3月からはda Vinciによるロボット手術を開始し、スタッフ3名がConsole surgeonの資格を取得、昨年末までで症例数は50例を越えました。

検診機会の減少や受診控えのためか、肺癌では高リスク症例や進行症例が増えている印象があります。気胸や膿胸・胸膜炎も、発熱を伴うとCOVID-19を除外する必要があるとあり、治療開始が遅れがちになります。先生方におかれましては、これらの対象疾患にお気づきの際は、症状の有無に関わらず、当院呼吸器内科・外科へ、お早めのご相談をよろしくお願いいたします。

■ 消化器内科

内視鏡検査について

内視鏡業務はエアロゾルが発生しやすい環境です。検査に来院されてコロナウイルスに曝露する可能性はゼロではありません。このことについて文書で説明し検査の同意を得ています。同意された方には通常通りの検査・処置を施行しています。

内視鏡室における感染対策

アルコール消毒剤の設置

待合室におけるソーシャルディスタンス保持の呼びかけ

窓口にてコロナウイルス感染の問診・体温チェック

該当する方は説明のうえ検査せずに帰宅いただいております

内視鏡スタッフの防護

すべての検査でPPE（personal protective equipment）に準じた装備で検査を行っています

急患受け入れ

コロナ感染を否定できない症状の患者は外来をスルーして個室に直接入院いただきます。まず病室でPCR検査を行い陰性を確認してから検査処置にあたります。外来で診療はいたしません。入院を承諾されない、個室の確保ができない、場合は受け入れが困難なことがあります。

ここをクリアできれば、全く通常通り診療を行っています。

先生方へお願い：緊急紹介の前に、以下の問診をお願いします。発熱は当日だけでなく過去数日間の問診をお願いします。所見があれば紹介時に情報提供をお願いします。

クラスター発生防止にご協力をお願いいたします。

- ・ 37.5℃以上の発熱
- ・ せき・咽頭痛・鼻汁
- ・ 味覚・嗅覚異常
- ・ 息切れ・呼吸困難感
- ・ 家族・周囲に新型コロナウイルス感染者



■ 外科

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大の中、多くの患者さんをご紹介頂きました。お陰様で外科は2019年度件数を上回る手術をさせて頂くことが出来ました。特に胃癌、大腸癌、膵臓癌の増加が顕著で緊急手術件数も昨年を上回り、2019年春の外科の一時的縮小以前の状態にほぼ戻すことができました。心より御礼申し上げます。さて、2021年春には外科医師の複数名の増員があり、より専門性の高い医療、漏れなく迅速な緊急医療対応、丁寧な情報交換に精進致します。新型コロナウイルスの見通しは未だ不明ですが、新型コロナ感染術前スクリーニングを含めたより安全な体制で臨みますので今年もどうかよろしくお願い申し上げます。

■ 循環器内科

循環器内科では、概ね通常通りの診療を行っています。

緊急性が高くないと思われる検査などについては、患者さんと相談の上で、数ヶ月程度先の予定にすることもあります。

どうぞよろしくお願いいたします。

■ 糖尿病内分泌内科

通常通りの外来、入院診療を行っています。

糖尿病教室は休止。初診患者向けの糖尿病療養指導は個別に対応しています。

検査結果が出るまでの待ち時間に栄養指導・療養指導を行い、待ち時間の有効活用、院内滞在時間の短縮に努めています。内分泌疾患については甲状腺を中心に下垂体、副腎、副甲状腺など幅広く診療しています。内分泌疾患はまず疾患を疑うことが重要です。患者が自分で症状から疑って直接来院することもあります。かかりつけ医の先生方が軽微な症状や所見から内分泌疾患を疑いご紹介いただくことで診断・治療（薬物療法・手術など）に至る例が多いです。今後ともよろしくお願い致します。

■ リウマチ科

平素より、関節リウマチを初め、多くのリウマチ性疾患の患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

当科は、「一人一人の診察を丁寧に行う」ことをモットーとし、「他科との連携がよい」という利点を生かした診療を行っております。

関節リウマチは早期診断と早期からの抗リウマチ薬による治療介入によるタイトコントロールが必要な疾患です。コロナ渦においても、対面診察を行い、早期の寛解を目指しています。当院では、メトトレキサートを中心とした抗リウマチ剤、さらには生物学的製剤、JAK阻害剤などによる新しい抗リウマチ薬で早期から積極的に治療を行うことにより、「寝たきり」「仕事ができない」「家事に困る」などのQOLの改善に心がけています。また、「間質性肺炎があるから」「肝臓が悪いから」リウマチの薬が使いにくいなど、治療に難渋している患者様も他科と併診しながら、積極的に治療を行っています。

■ 小児科

通常通りの診療をおこなっております。

■ 血液内科

通常通りの診療をおこなっております。



■ 整形外科

整形外科では、新型コロナウイルス感染症に対して、様々な対策を講じております。日本整形外科学会から出された整形外科手術のトリアージに基づいて、手術延期の可否を判断しています。また、PCR検査を含めた新型コロナウイルス感染症のスクリーニングにつきましては、当院コロナ対策部会指導の下で行っています。

整形外科疾患の多くは、患者さんの生命を直接脅かすものではありませんが、死亡率上昇やQOL低下に影響を及ぼすことが報告されております。患者さんの治療でお困りの際は、当科までご紹介の程お願い申し上げます。

■ 皮膚科

皮膚科は、通常と同様の体制で診療を行っております。

軽微な症例でも結構ですので、患者さんのご紹介等、引き続きよろしくお願い申し上げます。

■ 形成外科

形成外科は現在、常勤医2人体制で外来・入院、手術を行っております。

体表面の外傷や熱傷、顔面骨骨折、静脈性潰瘍や褥瘡も拝見させていただいており、皮膚腫瘍や軟部腫瘍も扱っておりますが、マンパワーが足りず、悪性軟部腫瘍や悪性黒色腫に関しましては、現在多施設にご紹介させていただいている状態です。

現時点ではコロナ禍ではありますが、手術の制限はしておりませんが、状況に応じて待期手術は延期されることもあると思われます。

救急でのご紹介も可能な限り対応させていただきたいと思っておりますので、何かありましたらお問い合わせください。

今後とも、姫路医療センター形成外科をよろしくお願いいたします。

■ 泌尿器科

泌尿器科においては、この四月から専攻医の高橋大介先生が新たに戦力に加わり、ようやく念願の四人体制となり診療において多少余裕が出来るようになりました。

おかげさまで昨年10月から開始した前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術も予想以上に順調に症例を重ねることが出来、12月までの一年強の間に50例を数えました。平均入院期間10日及びカテーテル留置期間5日と、従来の手術に比べ半減し患者さんへの負担もかなり減少し喜ばれています。さらに先日より新たに浸潤性膀胱癌に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術も開始いたしました。まだ症例が少ないものの、術後の経過は良好です。これからもよりよい医療を提供できるよう研鑽していくつもりでありますので、地域の先生におかれましては、これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

なお、泌尿器科における新型コロナウイルスの影響としては外来患者さんの減少を認められていますが、幸い手術の制限や手術件数の減少を認めることなく、現在に至っています。

■ 耳鼻咽喉科、頭頸部外科

当科は現在5人体制で診療にあたっています。当科病床は20床前後で推移しております。

新型コロナに対しては一時的に手術を制限しておりましたが、現在のところ術前スクリーニングとしてPCRを施行した上で特に制限なく手術を実施しております。

甲状腺も含む頭頸部腫瘍に対する治療については機能温存治療から拡大切除手術まで対応しております。また、中耳手術については内視鏡下手術を導入しております。その他、緊急疾患を含め耳鼻咽喉科領域全般に可能な限り対処してまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。

なお、脳外科常勤医、眼科常勤医が不在のため、頭蓋底病変や眼窩周囲病変への対処は困難です。

■ 放射線治療科

当科では新型コロナに十分配慮し、密をさけながら業務をおこなっております。

放射線治療は他の癌治療法と比較し、「相対的に」距離感を保て、感染症対策が立てやすい治療法です。

放射線治療のもつ低侵襲性とあわせて、大半の患者さんで通院照射も十分可能で「コロナ時代」に最も適する癌治療法とも言えます。

当院 高精度放射線治療センターでは トモセラピーという最新型IMRT専用装置を中心に、IMRT(強度変調放射線治療)やSRT(定位的放射線治療)を精力的に行っています。

現在当院は明石以西のはりま地区で唯一の放射線腫瘍学会認定施設であり、高精度放射線治療に関しては県内でも屈指の症例数を誇ります。

地域の癌治療に少しでもお役に立ちたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

■ 放射線診断科

放射線診断科では診断医の増員に伴い、本年度から地域医療連携枠を増加しています。CT、MRI、PETを含む核医学、骨密度測定など一般的な検査には全て対応いたします。

新型コロナ対策として、無症状または軽症の患者が日常の検査に含まれている可能性を考慮し、スタッフは患者毎に手指消毒を徹底しています。また最前線にいる診療放射線技師がコロナ肺炎に対する意識を高く持つことで、疑い症例をいち早く放射線診断医や臨床医に報告して速やかな診断につながるよう努めています。

なおコロナ肺炎確定症例のCT検査は原則最後の検査枠で実施し、撮影後には検査室を消毒して一定時間使用禁止にするなどし、院内感染に万全の対策を施しています。

■ 救急科

救急の現場は多忙を極めていますが、救命処置を一刻も早くおこなえるよう、ドクターカーでの出動など救急活動は通常通りおこなっております。

■ 緩和ケア内科

外来：療養支援外来として、月～金曜で通常通り症状緩和治療、在宅療養環境調整、意思決定支援をさせていただきます。BSCの治療方針の患者さんであれば早期からご紹介いただければ幸いです。診療時間内であれば、緊急時はできる限り当日対応いたしますのでご連絡ください。

病棟：緩和ケア病棟は、面会制限をしております。しかし患者さんやご家族にとり、共に過ごされる時間には限りがあり、非常に大切となりますので、市中コロナの感染状況や患者さんの病状に応じて対応させていただきます。



新型コロナウイルス感染症に関する 当院の対策について



来院されるすべての方に

正面玄関での検温を実施します。



それに伴い、平日の正面玄関の開錠時間を

8:00-17:15に変更します。

検温の結果、体温が37.5℃以上の方は看護師が問診等を行います。

当日入館許可証
を配布しています。



入院患者さんへの

面会を原則お断り致します。

急を要する場合は予め病棟へお問合せください。

入院中の患者さんとご家族のコミュニケーションは、タブレットや携帯端末などを活用しています。
ご利用にあたっては、周囲へのご配慮と協力をお願い致します。

来院時の**マスク着用・手指消毒**を
お願いします。

手指消毒薬は病院入口・各病棟・病室入口に設置しています。

安心して手術を受けていただくために
術前PCR検査を実施します。

ご迷惑・ご心配をおかけしますが、ご理解とご協力のほど
よろしくお願い申し上げます。

編集
後記

新年明けましておめでとうございます。2021年は丑年です。「丑」という漢字は「紐」という漢字に通じ、厳しい寒冷の土の中で草木の根が紐のように結び合い、芽吹きへ向けて耐え忍んでいる様子をあらわすとされています。新型コロナウイルスの終息までまだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、辛抱強く頑張りながら芽吹きの準備を進め、新たな発展へと繋げる年にしていきたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。